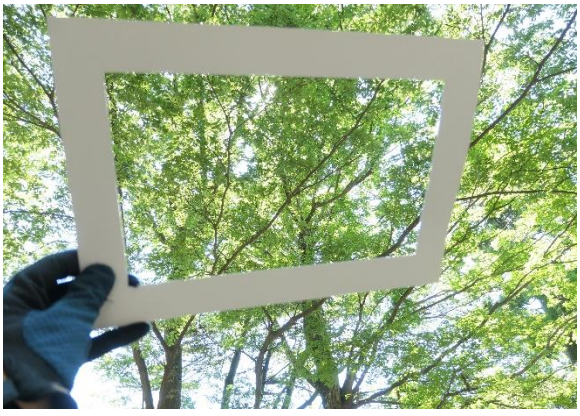
令和元年度　小学校教員向け環境教育研修会　実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」
第６回「高尾山で豊かな自然を体感」（テーマ：自然）

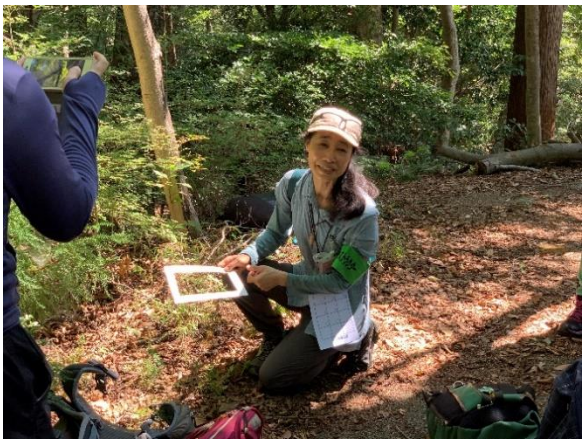
□実施日時　　令和元年８月９日（金）９時１５分～１５時４５分
□受講者数　　３０名（教員２６名、研修・聴講者４名）
□実施場所　　高尾山、高尾ビジターセンター
□実施内容
【午前】
１．事務連絡・開講挨拶等
・　事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明
・　環境局総務部環境政策課から開講挨拶等

２．ゲストティーチャーからの講義及び実習
（ゲストティーチャー：森林インストラクター東京会
岡本俊彦氏、水木稔氏、高橋まり子氏、福田正男氏）

・【ケーブルカー乗車前】準備体操、班ごとに自己紹介、安全上の注意事項説明など

・【慰霊碑広場】ネイチャーゲーム「森の美術館」体験





・【慰霊碑広場～４号路】歩きながら、自然観察会を実施。山頂で振り返り。

【午後】

３．環境学習プログラム「自然に親しむプログラム」の紹介及び実習

（講師：NPO法人 環境学習研究会理事長　谷村春樹氏）

（１）環境学習のポイント　～体験の重要性・森は命のみなもと～

・子どもたちは、体験を通して、「森は命のみなもと」であることを知り、自然を大切にする人間に成長する。
・環境学習には知識と体験の相互作用が大切。教科学習の土台があるから環境学習ができる。
・環境学習は自分の問題として気づきを促す手法。暮らしの中や地域での実践、様々な人と関わることによる成長や感動、ふるさと意識の醸成にもつながる。

（２）自然体験学習のポイント

・体験を通して自然の大切さに気付く。
・様々な手法を活用して、自然の不思議さや面白さに気付く。
・五感が大切。最初に見つけさせる、感じさせる。

（３）「自然に親しむプログラム」プログラム紹介と体験

①「葉っぱ合わせ」模擬授業

・数種類の木の葉っぱを２枚ずつ用意して、どの葉とどの葉が同じ木の葉っぱか、色や形、手触り、厚さ、におい等をよく調べて葉っぱ合わせを行う。班ごとに、なぜ同じ葉っぱだと判断したのか、気づいた点などを発表する。

②その他のプログラムの紹介

・自然発見ビンゴ、秋の宝物さがし、冬芽拡大図鑑

・「緑の役割を知ろう！」（温度くらべ）など

（４） まとめ（質疑応答及び受講者同士の情報交換）

この日の研修を通じて、気づいたこと、感じたこと、授業での活用方法や各学校で実施した関連事例等について、グループごとに発表し、受講者で情報を共有。

（発表意見の例）

・午前中の自然観察やネイチャーゲームは、ただただ楽しかった。

・今日はガイドがついていたが、自分に知識がなくても、“この花に名前をつけてみよう”などのネイチャーゲームは、子どもたちとできるのではないかと感じた。環境学習を始めるきっかけをがんばって作っていければと思う。

・校外学習を行うには問題が山積みだが、できるところからやっていきたい。

・学校や地域によって、自然の量や学校の状況が違う。学校の状況や地域の状況に合わせて、やれるところからやってみることが大切だと思う。

・葉を観察することで、子どもたちの感性が磨かれる。

・親の虫嫌いを子どもが引き継いでしまっている場合がある。10歳までの自然体験が大切だと感じる。

４．事務連絡、アンケート記入等（事務局）

アンケート提出後、解散